

ともに学び 支え合い

1年生「手紙」の取り組み

成長する集団であるために

今岡 朋子（島本町立第一中学校）

オリーブに込められた意味と願い

本校では、支援学級の通称を「オリーブ」としています。そこには、3つの願いがこめられています。1つ目は「時間をかけて自分を変えていく（オリーブの実は、木から取った状態では食べにくいですが、オイル漬けにしたり、天日干しにしたりと時間や知恵、手間と工夫でおいしい食べ物に変わっていく）。」2つ目は「希望の象徴（大洪水の中、箱船で40日間漂流したノアのもとに、白い鳩がオリーブの枝をくわえてやってくる。枝があるということは、どこかに地上があるということ。今は辛くても苦勞を乗り越えれば必ず希望の光を見いだすことができる）。」3つ目は「ねばり強さ（ヨーロッパでは石油や電気が使用されるまで、どんな荒れ果てた大地でも育ち、年中収穫できるオリーブのオイルを使ったランプが主流だった。オリーブはたとえ石炭岩の上に実が落ちたとしても、何百年もかけてゆっくり根をおろし、少しずつ少しずつ育っていく。最後には岩をも砕いてしまう、ねばり強さがある）。」



（本校に植樹されているオリーブの木）

本校では、地域にある3つの小学校から新入生を迎えます。新しい出会いの中で、オリーブ生が集団の中に受け入れられ、理解が進むことを目的に、例年4月中に学年集会をもち、支援学級生理解の授業をしています。（今年は、表題にした「ともに学び 支え合い 成長する集団であるために」というテーマで実施しました。）社会は様々な立場の人で成り立っていることや、左に記した「オリーブの意味」などについても話しますが、一番大切にしているのが「入級した生徒の保護者からの手紙」を紹介する時間です。「手紙」には、なぜ支援学級での学習が必要なのか、どのような中学校生活を送ってほしいのかを、同級生のみみんなに呼びかける形で書いてもらっています。例えば、「騒がしい音が苦手で、落ち着かなくなった時は、支援学級で休憩します。」「勉強は苦手ですが、体を動かすのは大好きで、運動部に入るのを楽しみにしています。」「恥ずかしがりやで自分から話しかけるのは難しいですが、皆さんと仲良くなりたいと思っています。」など、一人ひとり、思いのこもった温かい手紙です。

授業が終わった後、生徒たちは各学級に戻り、感想を書きます。そこには「国語や数学の授業になるとオリーブに行くのはなぜか不思議だったけれど、よく分かった」「みんないろんな事情を抱えているけれど、がんばろうとしていると知れてよかったし、応援したい」「みんなと一緒に仲良く過ごしてほしいと、どの親も書いて驚いたし、願いがよく伝わった」など、学年の仲間からの声が寄せられます。

オリーブ生を含め全ての生徒の個性が輝き、互いに影響しあいながら、成長を続ける集団であるために、この取り組みは、大切に続けていきたいと思えます。